

編集者 宮内嘉久

建築ジャーナリズムの戦後と、 廃墟からの想像力

建築思想の潮流にジャーナリズムが果たした役割は小さくありません。他の文化領域と同様に、建築の世界の編集者も雑誌を言論の舞台として思潮を形成してきました。

展覧会では、戦後日本の建築界において、独自の仕事を残した編集者・宮内嘉久(1926-2009)を取り上げます。宮内は、雑誌や書籍の編集・出版を通じて、戦後の建築領域に批評性の高いジャーナリズムを確立しようと試みました。その後半生は、『新建築』などの業界大手の雑誌ではなく、個人誌や同人誌といったミニコミの出版に傾注します。

京都工芸繊維大学美術工芸資料館には、宮内嘉久の旧蔵資料が保管されています。この宮内嘉久資料は、書簡や会合のレジュメなど多くの資料が含まれており、戦後日本の建築界の動向を知るための貴重な証言となっています。

展覧会では、これら資料を初公開するとともに、編集者・宮内嘉久の仕事を通じて、戦後日本の建築ジャーナリズムが持ち得た意味を考えます。

第1章 1948-1957年——編集者としての出発

東大在学中に初めて編集に携わった『生活と住居』から、「新建築問題」で失業するまでの10年余の活動を紹介します。

第2章 1958-1969年——建築ジャーナリズムの根拠地

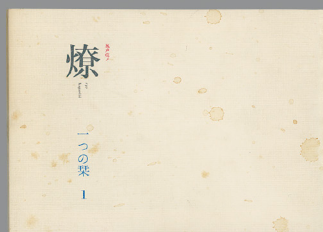
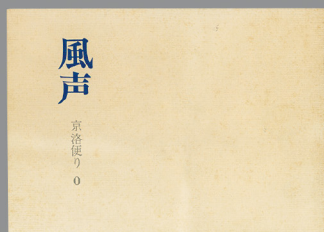
独立後、『建築年鑑』や『国際建築』の編集に取り組みながら、建築ジャーナリズムの確立をめざして設立する出版企業「建築ジャーナリズム研究所」の活動を中心に紹介します。

第3章 1970-2009年——もうひとつの媒体、手づくりの回路

個人誌『廃墟から』や同人誌『風声』、『燎』など、ミニコミの送付に注力していく1970年以降の活動を紹介します。

第4章 未来のコミュニケーションを求めて——ミニコミで紡ぐ共同体

宮内嘉久が、メディアの実践を通じてこつこつと紡いでいった共同体を、受け手の視座から紹介します。



『廃墟から』執筆のために作成されたノート／『風声』第0号／『燎』第1号



宮内嘉久

編集者。1926年、東京生まれ。東京大学第二工学部建築学科卒業。彰国社や『新建築』編集部などを経て独立、『建築年鑑』『国際建築』の編集に取り組む。1970年以降は個人誌『廃墟から』、同人誌『風声』『燎』『水脈』に注力。著書に『少数派建築論』『廃墟から——反建築論』『建築・都市論異見』『建築ジャーナリズム無頼』『前川國男——賊軍の将』、編著に『一建築家の信条』『前川國男作品集』など。2009年12月13日没。享年83歳。

ML連携企画「戦後建築ジャーナリズムの群像」

会場 | 京都工芸繊維大学附属図書館1階
会期 | 2021年3月22日(月) - 4月30日(金)
休館日 | 土曜・日曜・祝日
入館料 | 無料

* 図書館は新型コロナウイルス感染拡大防止のため入館を学内者に限定しています。最新の状況は附属図書館ホームページをご確認ください。

当館の感染症予防対策の取組み

- ◇ お客様対応をおこなうスタッフはマスクを着用し、検温による健康チェック及び手指の消毒をおこなっております。
- ◇ 受付には、飛沫感染防止用つい立てを設置しております。
- ◇ 館内入口と一部展示室の窓を常時開放し、可能な限りの換気に努めております。
- ◇ 多くのお客様が手を触れる箇所の定期的な消毒を実施しております。

ご来館の皆様へお願い

- ◇ 次に該当する方は来館をお控えください。
 - ・ 発熱、せき、くしゃみ、臭覚・味覚異常など風邪の症状がある方や、体調のすぐれない方
 - ・ 過去2週間以内に新型コロナウイルス感染者または感染の疑いがある方と濃厚接触が疑われる方
 - ・ 過去2週間以内に感染が引き続き拡大している国への訪問歴がある方。
 - ◇ マスクの持参・着用をお願いいたします。マスクを着用されていない方は、ご入館をお断りいたします。
 - ◇ 来館時に職員による検温を実施いたします。37.5度以上の熱があるお客様は、ご入館をお断りいたします。
 - ◇ 団体でのご来館はお控えください。混雑状況に応じて、入館をお待ちいただく場合がございます。
 - ◇ 設置している消毒用アルコールで、手指の消毒をお願いいたします。
 - ◇ ご入館の際に、氏名・連絡先等の記入をお願いいたします。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、何卒ご協力のほどお願い申し上げます。

館内同時開催 「第15回村野藤吾建築設計展
村野藤吾によるリノベーションの作法」
会期：2021年3月22日(月)～6月5日(土)
休館日：日曜・祝日

お問い合わせ

京都工芸繊維大学美術工芸資料館
〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町
TEL 075-724-7924 <http://www.museum.kit.ac.jp/>

交通

- 市営地下鉄烏丸線「松ヶ崎駅」下車 1番出口から徒歩約10分
- 京都バス「高野泉町」下車、西へ徒歩約10分
- 叡山電車「修学院駅」下車、西へ徒歩約15分

